

8. 岩瀧山山域

岩瀧山(733m)は、天上山の前衛峰であり、石ヶ谷峡からの登山道は岩登りの難ルートである。南面の湯の山温泉がある湯の山溪谷は、奇岩の絶壁の景勝で知られ、古くは広島藩のお抱え絵師であった岡岷山(おか びんざん)の「都志見往来日記・同諸勝図」にも書かれており、現在は動植物相も含め県自然環境保全地域に指定されている。岩瀧山の谷はいずれも流程が短く水量も少ない小溪流であるが、花崗岩のスラブの壁や滝が発達している。水内川にそそぐ最も東寄りの夜無谷は「たらたらの滝」の大滝で知られており、中の滝までは登山道があるが、それより上部の遡行記録は未見である。湯の山温泉からすぐの空谷川には中流部にスラブ滝の核心部がある。左岸には砥石ヶ嶽*などの絶壁があるのだが、谷の中からは少ししか望めない。詰め懸崖を登って岩瀧山の東尾根に出る。岩瀧谷は左岸に感応山や臼ヶ重などの絶壁があり、岩瀧山へ突き上げる主溪流だが、藪と苔むした巨岩のゴー口の続く谷で、遡行価値はないようだ*。湯来大橋近くの五郎谷は、水量は少ないが側壁の立った花崗岩の手強いゴルジュの中に滝が続き、大岩の間を詰めると781.3m三角点(永尾山)上部の登山道に出る。岩瀧山の西の石ヶ谷川流域は、下流部の岩峰とゴルジュは石ヶ谷峡として遊歩道が整備されており、シャワークライムの記録も見るが、上流部は平坦で沢登りの対象とならない。石ヶ谷川西の木藤谷は水越山を水源とし、左谷にはゴルジュの奥に大滝がある。打尾谷川左岸尾根の二井山谷は龍の口滝で知られる。

* <https://yamaaruki.sakura.ne.jp/08/080726-iwabuti.htm>

岩瀧山 水内川支流空谷川

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4870571.html>

日程 2022年11月03日(木) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク クアハウス湯の山第二駐車場より、上の道路を少し東に行くと橋があり、その脇から山道が空谷に延びている。堰堤を越して入渓。

コースタイム 日帰り 山行 4時間18分 休憩 30分 合計 4時間48分

S 湯の山温泉 09:58 10:39 大滝 10:50 12:51 ニセ岩瀧山(700m) 12:55 13:20 岩瀧山 13:25 14:10 感応山 14:20 14:46 湯の山温泉 G

コース状況／危険箇所等 岩瀧山から感応山までは、笹がかぶっているが、迷うことはない。湯の山温泉までは、良い道。

11月に入り、あまり濡れない沢ということで、湯来湯の山の、その名も空谷(からたに)川を遡行してきた。湯の山溪谷一帯は巨岩、絶壁の特異な地形と地質、動植物相により県自然環境保全地域*に指定されている。空谷の名前は佐伯区管内図によるが、有名な「たらたらの滝」*がある夜無谷のひとつ西側の谷である。従って地形的にも地図上は良く似ており、流程は短く中流部に等高線の詰まった部分があり、その前後はなだらかである。空谷は左岸上部に岩崖記号があり、念のためハ



ンマーとハーケンを持っていったが、実際に岩淵山登山道の尾根から見ると、下流部までスラブ状の懸崖群が連なり、壮観である。ただし、谷の中からは、その一部しか見上げられないのは残念である。空谷の核心部は例の等高線の詰まった部分に集約されており、前後は水の枯れたゴロ歩きののだが、この核心部と詰め懸崖部分だけでも、かなり楽しむことができた。(写真は核心部の連瀑24m)

☞ 核心部上段の10m 滝は、左岸の急斜面の樹林から巻いて落ち口に出る。

* <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/j-j1-hozentiiki-hozen-1-15.html>

岩淵山 水内川支流五郎谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4972806.html>

日程 2022年12月03日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 石が谷峡入口の丸子山憩いの森駐車場に駐車。憩いの森の荒れたハイキングコースをたどって国道488号に降り、国道沿いに湯来支所を過ぎた先の小溪流が五郎谷。

コースタイム 日帰り 山行 5時間28分 休憩 3分 合計 5時間31分

S 石が谷峡丸子山憩いの森 09:11 09:39 五郎谷出会 12:59 岩淵山登山道 13:18 781m 峰 13:20 13:57 654m 峰 13:58 14:42 石が谷峡丸子山憩いの森 G

コース状況／危険箇所等 岩淵山から石が谷峡への下山路は、鎖場などあり、本来は下山には使うべきではない。下る場合は、岩場でルートを見失わないように注意する。ルートは概ねダイレクトに岩尾根を下っている。また、下りは松葉がすべりやすく、尻もちに注意。尻セードしたいほどすべる。

その他周辺情報 丸子山憩いの森駐車場に水洗トイレ。

湯来の五郎谷は岩淵山の前衛峰 781.3m(永尾山)を源とし、佐伯区役所湯来支所(湯来大橋)のすぐ東で水内川に合流する小溪流である。五郎谷の名称は、佐伯区管内図によった。781.3m ピークは地形図には名称がないが、湯来町誌に記載がある。五郎＝ゴロとすれば、以前の湯の山溪谷空谷遡行の経験からも、水のない石のゴロゴロした荒れた谷が予想されるが、地形図上では中流部で谷幅がやけに狭まっているのが気になる。永尾山には岩峰も多いし、ここにゴルジュが隠されているのではなかろうか？というわけで、幸い天気も良いので、探索に出かけた。五郎谷の出会いは3面コンクリートで固められ水もなく、出鼻をくじかれる思いがしたが、右岸の作業路から大きな堰堤を越えると時折左岸や右岸に大岩のある岩盤の張った谷となり、水流も出てきて期待が高まる。問題の中流部には、やはりかなり手強い側壁を持つゴルジュが続き、滝の登攀では悪い高巻きも強いられ、フリーソロなので緊張した。詰めの比較的緩やかな源流部に着いた時にはほっとして解放された気分だった。水流が少ないので、苔やヌメリなどが多いが、花崗岩のスラブを主体とした谷なので、なかなかきれいで、遡行価値は高いと感じた。(写真はゴルジュ内5m+8m)

☞ ゴルジュ内7m チョックストーン滝は、左岸の岩壁の灌木を伝っての悪い高巻きで越える。



岩淵山 空谷川・五郎谷



湯来水越山 木藤谷左俣～右俣

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4709002.html>

日程 2022年09月24日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 国道488号線の湯来町菅沢、菅田橋の南詰、自販機のある路肩の広い場所に駐車(5台程度)。

コースタイム 日帰り 山行 5時間2分 休憩 17分 合計 5時間19分

S 菅田橋 09:09 11:50 左俣脱溪 12:00 12:35 中間尾根 12:38 12:56 右俣本流 13:00 14:28 菅田橋 G

コース状況／危険箇所等 一般道はない。菅田橋の南詰めから木藤谷右岸にそって植林作業道と思われる踏み跡があり、ゴルジュを避けて左岸に渡っている部分もあるが、荒れており不明瞭である。また、水越山の南尾根上には笹の中に薄い踏み跡らしきものがある

その他周辺情報 近くに湯来温泉

水越山 879.3m は石ヶ谷峡の西にあり、地形図には名前がないが、「湯来町誌」に記載がある。この水越山を源として水内川に流入するのが木藤谷である。木藤谷は、けっこうな流域を有するが、記録を見ず、知る限りでは加藤武三「広島近郊の山と谷 緑の回廊」の阿弥陀山のコース図に「キトウ谷」とあり、左岸に一か所懸崖の記号が描いてあるのみである。なお、木藤谷の漢字は佐伯区管内図によった。1/2.5万地形図を見てもそれほどの悪場があるようには見えない。国道288号の菅田橋から入溪するのだが、谷の出会いには民家の横で雑草に覆われてさえなく、一度通りすぎてしまったほどだ。植林の山で荒れた作業路もある。谷に入ると黒い岩に滝の白さが力強く、期待を抱かせた。はじめは取水ホースが引かれているのが気にさわるが…。上に行くと白い花崗岩の谷になる。所々岸が立ち、「緑の回廊」の絵のような片側ゴルジュの滝も見られた。左俣はゴルジュに大滝をかけ、見ごたえがある。上部は平川となって倒木が煩いので、適当な所で中間尾根を越えて右俣にくだったが、この尾根の登りがカシの樹林の下の胸までの笹藪で大変であった。水越山までは道もなく時間がかかりそうなので断念した。右俣への下降は植林帯で笹は薄かった。右俣は、大きな滝はないが、倒木が少なく、長くきれいなナメが多い。二俣からは、概ね右岸の踏み跡をたどって下ったが、左岸に渡り返す部分もあり、不明瞭で悪かった。下山後、時間が早かったので、前から寄りたかった伏谷の空口ママのミルク工房*の砂谷牛乳を使ったミルクジャムソフトクリームを頂いた。とてもまろやかで美味しかった。店の横にはすてきな庭とパティオがあり、阿弥陀山を見ながら外で食べることもできる。(写真は左俣ゴルジュ内2段8m滝)

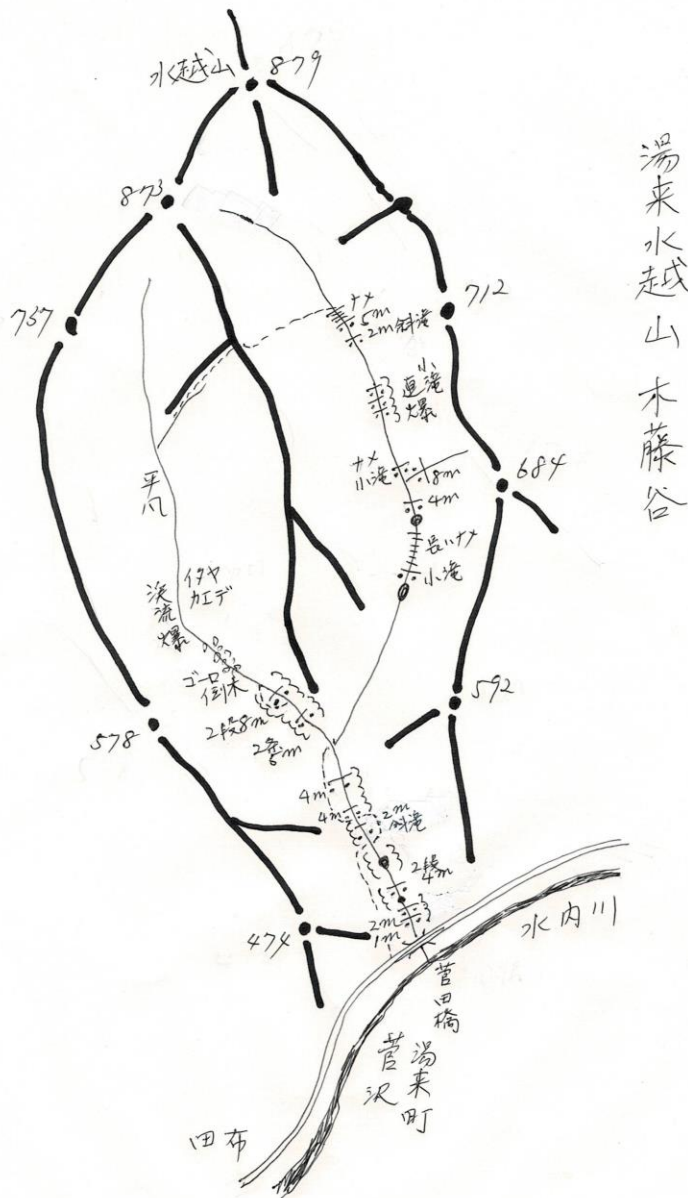


☞ゴルジュ内の大滝2段8mは、左の岩壁の中段を小さく巻く踏み跡があった。

* <http://soraguchimama.jp/>

(追記)昭和 42 年の地形図**では、キトウ谷に岩崖記号が描かれているが、現在の地図では省かれているのが面白い。

**<https://ktgis.net/kjmapw/kjmapw.html?lat=34.481391&lng=132.253075&zom=15&dataset=hiroshima&age=3&screen=2&scr1tile=k cj4&scr2tile=k cj4&scr3tile=k cj4&scr4tile=k cj4&mapOpacity=10&overGSItile=no&altitudeOpacity=2>



湯来打尾谷 二井山谷 龍ノ口滝～日室集落跡

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-5706557.html>

日程 2023年07月15日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 国道488号から湯来温泉で県道41号に入り、竜丸橋(下小多田バス停)先の路肩に駐車。道路を挟んだ反対側の坂道をあがり、民家わきの護岸沿いを登って入渓。

コースタイム 日帰り 山行 3時間52分 休憩 22分 合計 4時間14分

S 竜丸橋(下打尾谷バス停)09:07 09:20 龍の口瀧出合 09:50 龍の口瀧上 10:57 打尾谷左岸稜線
ピーク 11:05 12:06 日室集落跡 12:20 12:56 県道 13:21 竜丸橋(下打尾谷バス停)G

コース状況／危険箇所等 打尾谷川左岸尾根は、枝尾根が複雑に分岐し、明瞭な踏み跡や林道跡が時々現れるも、笹藪で道がわからないところも多く、迷いやすい。日室集落跡から県道41号に下る道は、地形図と異なり斜面を巻いていくが、県道に降りる際は落石予防ネットをうまく避ける必要がある。

湯来町多田、打尾谷の「龍の口滝」は、芸藩通志の多田村の図に、船岩の上流部に「龍口瀧」として、壮大な水しぶきを落としている*。この滝は、加藤武三の「広島市近郊の山と谷 緑の回廊」の湯来冠山の案内の中に、打尾谷にある落差40mの滝として紹介されているが、場所は書かれておらず、「湯来滝めぐり」**にも紹介されていない。江戸時代に岡岷山の「都志見往来日記・同諸勝図」*に描かれた船岩の近くにありそうなこと、落差とある程度の水量から、打尾谷川左岸の竜丸橋近くの二井山谷であろうと目星をつけてでかけ、竜丸橋を渡った先の民家で農作業の準備中であつた地元の方にお話をうかがって確認した。それによると、「龍の口滝」は「りゅうのくち」でなく、「たつのくち」で、対岸に岩が見えているあれじゃ、ということだった。登れんよ、とおっしゃたが、下まで見に行ってみますということにした。県道からは、樹林に隠れて、岩しか見えないが、民家わきの小さな流れを辿っていくと、暗い陰気な谷の入口すぐに、壮大に水しぶきをおとす3段40mの立派な滝が現れた。幅広の下段は登れるが、上段は狭まった龍の口から吐き出すごとく水が迸って登れない。兩岸は絶壁となっているが、右岸の弱点をついて高巻くことができた。地形図からは上部にもゴルジュがあるかもと期待したが、植林の中の平坦な流れだった。谷を詰めて、南に主稜線を下り、芸藩通志にも描かれている、平家の落人伝説(「湯来町誌」)の残る日室の集落跡***を目指した。湯来地区には、谷奥や山の斜面のちょっとした平坦地に集落があつたが、昭和30年代に離村し、今では跡が残るのみである。集落があつたのだから、道が残っているだろうと期待したのだが、地形図の破線はほとんど消失し、複雑な枝尾根も多く、簡単ではなかつた。たどりついた日室集落の跡には高い石垣が残り、こんな暗い山奥で昭和30年代まで生活があつたことが驚きだった。折から雨が落ちだし、昔は多くの人があつたであろう長い道を追われるように降りた。なお、二井山谷の名称は、広島市佐伯区役所農林建設部「佐伯区管内図」によつた。(写真は龍の口滝の中段と上段)

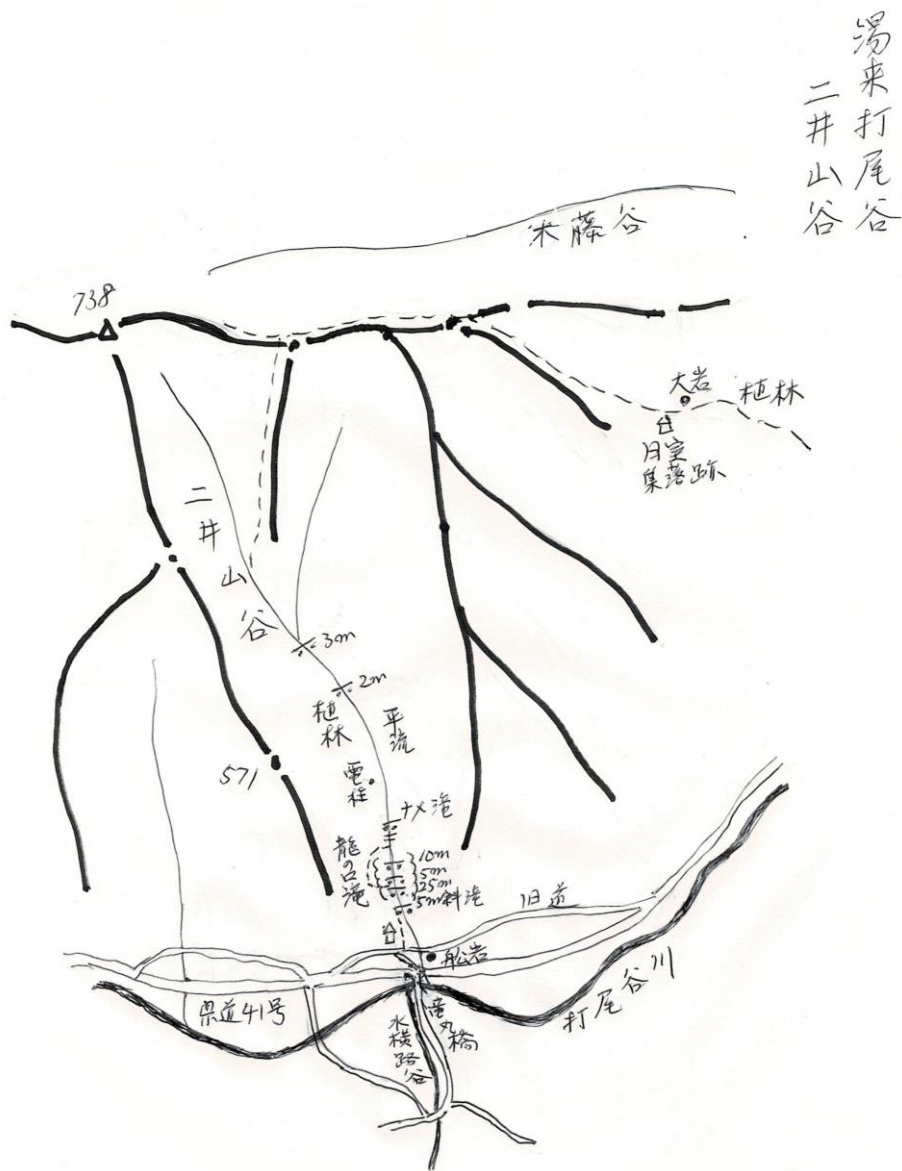


龍の口滝の下段 25m は、左をシャワーを浴びながら登る。中段 5m と上段 10m の高巻きは、右岸の崖の弱点をついて登り、細いバンドを左にトラバースして岩尾根上に出るが、一部岩がもろく悪い。岩稜上に出ると、左の樹林帯に取水ホースのある踏み跡が登ってきていた。

*<http://www.cgr.mlit.go.jp/cgkansen/yumekaidou/pc/nintei/49/pdf/yumerunetiku49-3.pdf>

**<http://www.cf.city.hiroshima.jp/yukinishi-k/takimeguri/index.html>

***http://www.aikis.or.jp/~kage-kan/34.Hiroshima/Yuki_Himuro.html



湯来打尾谷
二井山谷